



はなもみじ

平成22年 屋代
4月5日 小学校
春秋ごとに匂うなり

給食の基本を身につける

～ 給食週間 12日(月)～16日(金) ～



1年生の給食が、9日(金)より始まりました。「友達や先生と一緒に力を合わせて配ぜんする」「おいしく食事をする」「片付けまでしっかりと行う」ことが当面の目標です。ご家庭でも、次のご指導をお願いします。

「用意」「片付け」のできることは手伝う。嫌いなものでも、食べられるようになる。

テレビを消して、家族と食事を味わいながら、楽しくおいしく食べる。

食べることで、おなかも心も栄養いっぱいにしてあげてください。

13日(火)は、本当に暖かな一日となり、校庭の桜の花の下、おいしく給食を食べる様子も見られました。食べるのが「当たり前」と思いがちな毎日の給食ですが、おいしく食べられることの意味を考えられる子どもたちであってほしいものです。

「いただきます」の意味

「私の命のために動物や植物の命をいただきます」の意味があるといわれています。多くの命の犠牲の上に自分の命があることに感謝し、自分の命を大切に輝かせたいものです。

「ごちそうさま」の意味

「ご馳走」の「馳」と「走」は、ともに走るの意味があります。客人を迎えるのに走り回って獲物をとってきて、もてなすことだそうです。苦勞して食事を作ってくれた方々、盛り付けてくれた友達や先生、そして、給食費を払ってくださるお家の方に、感謝をしましょう。



最近の学校生活から

14日(水)避難訓練を行いました。自分だけでなく、周りの命を守るためにも、しゃべらずに行動することの大切さを学びました。



続々

キラリ輝くこの子のために(1)

発達障害のある子どもたちは、医学の進歩や保護者の関心の高まり等から、発見されることが多くなりました。この中でも、知的な遅れがなく気づかれにくい子どもたちが、各学級に5～10%の割合でいるのではないかとされています。

例えば「**読み・書き・計算が苦手**」「**多動で落ち着かない・集中が困難**」「**人とのかわりが苦手**」「**運動が苦手・手先が不器用**」等といった課題があり、学校生活に支障が出ることも少なくありません。



配慮を要するこの子たちは、ともすると、やる気がない、親の躰が悪いと誤解され、周りから理解や配慮をされずに、傷付きやすい状況に置かれがちです。周りに認められないことにより、自尊心が傷付き、「**自分は何をやってもうまくいかない**」「**役に立たない**」と自己評価が低下し、不登校や問題行動につながってしまうことがあります。障害が直接的な原因でなく、周囲の環境の影響によって起こるこうした問題を「二次障害」とよんでいます。



努力だけでは乗り越えられない課題をもつ子どもたちには、周りの者（教師、友達、保護者等）の理解と一人ひとりの特性に合わせた支援が必要になります。「**失敗することもあるけれど、よいところもたくさんある**」と、長所を認めて伸ばしていきましょう。「あたりまえ」と思われることでも実は大きくつまづいていることがあります。「**よい見本を具体的に**」教えましょう。

学校では、「秘密を守り、安全を確保する」ことを基本に、「**子どもさんや保護者に十分に話を聞き、ともによりよい学校生活を考えていく**」ようにしております。一人のことをみんなで考えることで、励まし合い成長し合う学級・学年・学校づくりができ、全体の向上につながります。

ご心配なことは、担任、あるいは、特別支援教育コーディネーター（浅井かよ子）養護教諭（山崎カヨ子）教頭（宮坂 正）にお気軽にご相談ください。

* 本年度も子育てを支援する「**続々キラリ輝くこの子のために**」を連載します。ご愛読ください。



発達障害とは：「高機能自閉症」「アスペルガー障害」「注意欠陥/多動性障害（ADHD）」「学習障害（LD）」等が含まれます。生まれつきの脳の機能のアンバランスで、さまざまな能力の発達に偏りがあり、従来の「知的障害」という枠だけでは支援の対象となりにくい障害です。